

2017-18年度クラブ米山記念奨学委員長セミナー報告

ロータリー財団・米山記念奨学会委員会
委員長 西村 芳雄

8月26日千葉商工会議所大ホールにてクラブ米山記念奨学委員長セミナーが開催されました。今回のテーマは、「米山奨学事業の可能性」についてです。

地区委員の紹介の後、富地区委員長より次のような現況説明と本日の趣旨説明がありました。まず、各クラブ各会員への寄付金に対する感謝の弁を述べられた後、この奨学事業の理解促進と寄付金の増進そして奨学生や学友との交流促進などの活動を促されました。そして、今後の課題として、選考基準の明確化と面接の重要性、奨学生の個性を活かした育成、カウンセラーの育成・ハラスメント研修の義務づけ、学友の意識改革と「ロータリー学友」との交流、公共イメージの向上などを挙げられました。その後、米山学友のタイのブサコンさん（この方は女性です。）の「日本の絆」という演題で卓話がありました。米山奨学生となり島根大学を卒業し、帰国後、タイ松下電器に入社され社長秘書などを務められております。2012年にはタイ米山学友会創設に幹事として参画され、また、ロータリーに多くの恩を受けたことや当時教えられた奉仕の精神を職業や社会において実践されているとのことでした。私は、米山学友として立派な方だと思いました。

その後、この奨学事業についての、先ほど述べました課題などにつきまして7テーブルに分かれディスカッションを行いました。私のテーブルにおきましても、いろいろな意見がありました。『奨学生は「架け橋」になっているのか。』、『国益にかなった運営になっているのか。』、『1年より2年が良いのでは。』、『推薦する大学関係者に、この制度をもっと理解してもらったら。』、『米山学友に掲載されているような立派な人も多い。』、『学友からも寄付が集まっている。』、『カウンセラーをしたけど、立派な奨学生だった。』、『奨学生の母国を見る目が変わった。』、『選考はどのような手順で行われているのか。』などなど多くの意見が出ました。私は、テーブルでの発表者に指名され皆さんの意見を代弁させていただきましたが、会場の各テーブルの意見を総合してみますと、改善の余地はあるのですが、この米山記念奨学制度は立派な貢献事業というのが大多数の意見でした。

当クラブでは、1月に奨学生の卓話を予定しております。皆さんの温かい心のこもった寄付を宜しくお願い致します。